

金沢区生涯学習“わ”の会 会報 第38号

平成23(2011)年8月

ホームページ: <http://kanazawa-wanokai.in.coccan.jp/>
メー ル: yokohama.kanazawa.wanokai@gmail.com



- ・歴史研究に3編掲載しました。
- 地誌・出来事・史料
- ・「寺社を巡る会」10周年記念講演会を企画しました。

目次

運営委員会からのお知らせ

- 2 東日本大震災義援金募集結果について
- 3 第6回(10月)学習会 探訪のお知らせ
- 4 会員からの寄稿募集

学習会

- 4 学習会の概要とアンケート結果

分科会からの便り

- 8 「懐かしの映画」鑑賞録 No.3
「懐かしの映画を観る会」代表 佐藤 晃
- 11 「浮雲俳句会」抄録 No.14
「浮雲俳句会」代表 北野 清市
- 13 「寺社を巡る会」10周年記念講演会
のお知らせ

歴史研究

- 14 栄区の東側周辺地域
朝比奈・六浦・釜利谷・峰の概説
(1)釜利谷
熊谷 哲
- 18 700年前の津波の話
伊達 一雄
- 21 『吾妻鏡』を読む(1)
小倉 英明
- 22 行事予定
- 22 編集後記

東日本大震災義援金募集結果について

去る5月14日の総会の場におきまして、会員の皆様のご賛同を得て、女性会員2人が義援金箱を持って会場の前と後に立ち、皆様の志を募りました。その結果、62,679円もお金が集まりました。当日の出席者が89名でしたので、1人平均700円強の義援金になります。また、その折に、会員の皆様から、会の会計からも多少支出しても良いとのご承諾を頂きました。これに基づき、1万円を加えて、合計72,679円とし、5月18日に神奈川新聞社本社を訪問、東日本大

震災義援金として寄託しました。これよって、翌19日の神奈川新聞朝刊の東日本大震災義援金一覧に【金沢区生涯学習“わ”の会 72679円 金沢区】と掲載されましたことをご報告申し上げます。このことは、既に、ホームページにも掲載済みです。

ご協力有難うございました。

神奈川新聞
2011.5.19

東日本大震災
★ ★ ★ ★ ★
救援金

神奈川新聞
厚生文化事業団
寄託
045(222)0615
(18日・本社扱い)

▽ホテルキャメロットジャパン(優勝
産代表取締役社長)・従業員・お客さま
一割 476万3998円 横浜市西区
北幸。

▽神奈川県公立小中学校教職員組合
250万円 横浜磯崎町

▽横浜少年野球連盟(学童部)・横浜
市小学生野球連盟(自由組) 11万
8千円 横浜中區 4月14日、15日
の選手ら約120人が観戦時、所用
品類などの各駅まで行った義援
金

▽六倉橋商店街復興支援会 20万4
千円 神奈川区六倉橋 5月8日 被
災地の野菜、お惣菜などを取り寄せ寄贈
した市の売上金

▽アック・システムは 10万2千円

▽日・7083キートビルハムグル
ー 1万1千円 南区南幸町 アマチュ
ア無種トランクドライバーのグルー
プで九州から北海道までの仲間を集めた

▽神奈川県東海連フアークガイドの会
15万円 横浜区上大岡 会創立10周年
のための創立祭の一部と、5月14日の例
会「品川」での参加費など

▽横浜ハービー会・横浜校長会ほか14
人 10万円 横浜町

▽関東学院高等学校引継卒業生 10万
円 横浜区真金町 成人を記念して行った
行事の収益金

▽金沢区生涯学習「わ」の会 7万2
679円 金沢区

▽アック・システムは 10万2千円

▽横浜少年少女フットボール連盟
1万円 横浜区六倉橋

▽横浜連盟さん 1万5千円 横浜区上野田
町

▽ちよびーす主催 Yokosuka
Music Players 等 10万円

第 6 回(10 月)学習会 探訪のお知らせ

能見堂跡と釜利谷東部を歩く

昨年の釜利谷西部の探訪に続き今年には能見堂跡と釜利谷東部を訪ねます。

能見堂は昔から金沢八景の眺望台として有名で、特に心越禅師がここを訪れ故郷の瀟湘八景に似ていることから金沢八景の漢詩を詠み、これが金沢八景の起こりといわれています。能見堂跡ではその歴史を学ぶとともに、この能見堂跡を再生しようと努力されている鈴木祥三氏から現地で簡単な説明を頂き、午後釜利谷地区センターで能見堂跡再生の取り組みの話詳しく伺う予定にしています。

お寺は2か所訪ねますが、その一つが金沢七井のうちの一つ“赤井”に関係の深い正法院を訪ねご住職からお話を聞かせて頂く予定です。

二つ目は昨年訪れた手子神社と共に伊丹氏と縁の深い禅林寺を訪ねますが、ここは家康公の肖像が下賜され寺宝になっています。

当日は探訪実行委員会で作成した資料を配布し、説明もします。

終了後の懇親会も予定していますので是非ともご参加ください。

尚、探訪参加のアンケートを8月学習会で集めますが、間に合わなかった方は9月学習会で提出又は運営委員に連絡ください。

実施要領

日 時：10月14日(金) 小雨決行

集合場所：金沢文庫駅西口階段下広場

集合時間：午前 9:45

昼 食：各自用意(場所：釜利谷地区センター)

懇 親 会：会場 夢庵 釜利谷店 会費 3000円

注：昼食後に例年通り2012年度継続会員の申し込み手続きを行います。

会員からの寄稿募集

本会報は会員の交流の場でもあります。その場を広く充実したものとしたいものです。皆さまの随筆、紀行文、探訪記、吟行文と吟詠、論文、解説、提言、絵画、写真、イラスト等幅広く掲載しようと思っております。特に来年2月には40号と節目を迎え、「会報発行10周年記

念特集号」をと考えている次第です。皆様の投稿を期待しております。

大門（メールアドレス：DQL04671@nifty.com
〒236-0016 金沢区谷津町 65-1-736
045-784-6238）またはお知り合いの編集委員・運営委員までお問い合わせください。

学習会

学習会の概要とアンケート結果

第1回 「日本の治安 - 安全な金沢」

開催日：2011年5月14日

場所：能見台地区センター 多目的室

講師：浮雲俳句会代表 北野清市氏

出席：87名（ビジター 2名） 会員の出席率：71.3%



北野清市氏

概要

講師は“わ”の会分科会「浮雲俳句会」の代表であるが、警察官僚として県警本部長などを歴任した経歴を持つ。今回は“わ”の会総会後の限られた時間内での講演であり、自らの体験を中心にした「警察」講座になった。

講演の構成は、1. 近代警察の歴史、2. 現在の警察、3. 日本と金沢の治安の3部から成る。

1. 近代警察の歴史

東京警視庁が明治7年に創設された。江戸時代の同心（与力）に代わって、邏卒（警察官）制度を設ける。邏とは警邏すなわち巡るの意で、卒とは兵士の意で、つまり巡查である。司法省に警保寮を置き各県に大警視を派遣・管掌。明治19年に1郡区1警察署制度を確立。そして終

戦。占領軍により「自治体警察」と「国家地方警察」の2本立て体制になり昭和23年に旧警察法が施行。現行の警察法は昭和29年の施行である。

「警察庁」は「都道府県警察」を指揮監督し内局として5局が置かれ地方機関として7管区警察局が設置されているが、東京と北海道は別枠である。

「都道府県警察」の職員はその都道府県の職員であるが、警視正以上は国家公務員になる。警察官の階級は警視総監、警視監、警視長、警視正、警視、警部、警部補、巡査部長、巡査の9階級である。

2. 現在の警察

講師の経験を踏まえた話になる。昭和43年に警務部長として赴任、柔剣道の強化をした熊本

県警。昭和35年の香川県警、36年の徳島県警などに触れ、昭和54年初めての本部長となって赴任し、検挙率全国1位にした青森県警の話が続く。

3. 日本と金沢の治安

日本の治安水準は“世界一の治安”である。強盗件数は、アメリカの約113分の1、フランスの約49分の1で、殺人検挙率は、日本97.3%、ドイツ94.8%、フランス84.5%、イギリス79.6%、アメリカ75.9%である。

金沢区は刑法犯の認知率が全国比で少ないので“更に世界一の治安水準”だが、検挙件数が減少しているなど懸念材料もある。

アンケート結果

全体評価 大変良かった：11、良かった：8、普通：10、つまらなかった：7

- ・安全な日本、安全な金沢区を改めて認識した（10）
- ・余り知らなかった警察の実態が理解できた（5）
- ・“わ”の会では毛色が変わった講演であったが面白かった（2）
- ・講師個人の説明が多かった。もっと客観的な立場での組み立てが望ましい

第2回 「奈良・平安時代の金沢・六浦」

開催日：2011年6月11日

場所：金沢地区センター 大会議室

講師：中世史研究者 盛本昌広氏

出席：75名（ビジター 0名） 会員の出席率：61.4%



盛本昌広氏

概要

約 1500 年前の話というのはかなり馴染みにくいものであるが、盛本氏の講義は奈良平安時代の金沢・六浦の資料はわずか 2 点しか残っていないと驚かせて始まった。

明治時代までであった「久良岐」の名前が出てくる最古の史料は『日本書紀』で、その中に出てくる倉櫛（くらす）が該当するのではないかという説明だった。

続いて行政組織の国造（くにのみやつこ）屯倉（みやけ）から、律令制における国府、国分寺、郡家について説明があった。

言葉の説明だけではなく現在ある地名とのかわりまで言及されたのが興味深かった。

また、滋賀県の湖東三山の一つ「金剛輪寺」に残る文書から、久良岐郡からは染料である「茜」「紫」が朝廷に上納されているのが分かった。

た。

興味深かったのは、金沢区大道の宝樹院で 1991 年にお堂の阿弥陀三尊像を修理した際に、頭部から修理願文や経典などが見つかったという話だった。

この仏像は称名寺の末寺の常福寺の本尊で、文書の解読も含め丁寧な解説があった。

これが平安時代の六浦についての唯一の史料ということで、難しい古文書を手掛かりにした謎ときの面白さを味わったといえる。

盛本氏の講義はいつもながら、かみ砕いた説明で分かり易い上に現代との接点についても話が及んでいるのが特徴である。

学習会のアンケートの提出は半分以下だったが、約 60%が大変良かった、良かったが 26% という結果は、これを裏付けるものであろう。

アンケート結果

全体評価 大変良かった：21、良かった：9、普通：3、つまらなかった：1

- ・ 分かり易くかみ砕いた説明で、かつ、資料も読み易く理解し易い(10)
- ・ 具体的なことから論理の組み立てが分かり易い(6)
- ・ 古い時代の金沢の情報の少ないことが分かった
- ・ 古文書を抛り所に説明がなされた
- ・ 新味なし。すべて事典に記載済みのことのみ

第 3 回 「源氏と金沢・鎌倉」

開催日：2011 年 7 月 9 日

場所：能見台地区センター 多目的室

講師：中世史研究家 盛本昌広氏

出席：96 名（ビジター 2 名） 会員の出席率：77%



盛本昌広氏

概要

1. 源氏の鎌倉への定着のプロセス

平忠常の乱

長元元年房総半島で桓武平氏流忠常が反乱を起こした。平直方が追討使として乱の鎮圧に向かったが成功に至らず、改めて清和源氏流の甲斐守頼信が追討使となった。忠常は、その以前に頼信の従者となっていた事情もあり、頼信は乱を治めた。

源氏の鎌倉進出の第一歩

上総介であった平直方は、鎌倉に屋敷を構えていた。これは鎌倉が六浦を経由した上総方面への中継地として、重要な位置を占めていたからである。

その鎌倉へ、忠常の乱を治めた頼信の子頼義が、相模守として着任した。

直方はその女の贅として頼義を迎え、鎌倉の地を譲渡した。これが源氏が鎌倉に勢力を築くに至る第一歩となった。

源氏の鎌倉支配の強化・拡充

頼義は、京都石清水八幡を勧請して由比郷（下若宮）に八幡宮を創健、その子義家がこれを修復するなど鎌倉に源氏の地歩を固めた。これを引き継ぎ義親・為義・義朝等も代々鎌倉を本拠に、近隣・周辺の地域にも配下の武将を配置するなど、支配体制、防御体制を強固なものとして行く。

義朝が鎌倉の本拠の他に、辺浜（沼間）に別

館を構えていたことや、那珂氏の祖である頼経の弟宗経の子実経に、保元の乱の功として相州六連庄を与えたことなどは、その体制強化策の表れと見られる。

頼朝は、この源氏の地鎌倉に幕府を開いた。

2. 範頼伝承と太寧寺

範頼は、河内源氏の流をくむ義朝の六男として遠江国蒲御厨で生まれたので蒲殿と呼ばれた。幼時藤原範季に養育されたので、範頼を名乗った。

頼朝挙兵に応じて平氏討伐に参戦、義経とともに大いに戦功を挙げたが、平氏滅亡の後、頼朝に謀反の疑いをかけられ、修善寺の地で景時の襲撃を受け自害した。

その死が悲劇的であったことから、範頼は修善寺の襲撃を逃れ、瀬ヶ崎の別邸に潜んだが、結局その地で自害し、その地の薬師寺に葬られたとの伝承がある。

薬師寺は、その後寺前村に移り現在の薬王寺となり、瀬ヶ崎の薬師寺跡には栄西により、範頼の法名をとった太寧寺が菩提寺として建立されたといわれている。

太寧寺には寺宝として、範頼の位牌と杉若景秀が萩藩のお抱え画師遊素斎に画かせた範頼像がある。

なお、太寧寺は、昭和 18 年海軍の施設拡張のため、瀬ヶ崎から片吹に移設された。

アンケート結果

全体評価 大変良かった：29、良かった：16、普通：1、つまらなかった：0

- ・明快で丁寧な解説(16)
- ・鎌倉と六浦周辺との関わり(15)
- ・鎌倉と源氏との由縁(7)
- ・源氏と平氏との関係(3)



「懐かしの映画」鑑賞録 No.3

「懐かしの映画を観る会」代表 佐藤 晃

カッコウの巣の上で One Flew Over The Cuckoo's Nest

鑑賞日:2011.3.13

制作:1975年 アメリカ 上映時間:133分
監督:ミロス・フォアマン 原作:ケン・キージー
主演:ジャック・ニコルソン、ルイーズ・フレッチャー、ダニー・ビート
その他:アカデミー作品、監督、脚本、主演男優、主演女優賞受賞

あらすじ

1963年9月、オレゴン州にある州立精神病院にランドル・P・マクマーフィ（ジャック・ニコルソン）という男が送り込まれてくる。刑務所の強制労働所に入れられていたが、強制労働を免れるために精神異常を装っているとの疑いで、検査のため入院させられたのである。この病院は、ラチェッド看護婦長の厳しい管理体制のもと、患者は無気力状態に置かれている。マクマーフィは婦長に反発し、彼らに生气を取り戻させようと様々な抵抗を試みる。バスケット、トランプ、ワールドシリーズのテレビ観戦と手を換えて試みるが、閉じた彼らの心を開くのは難しい。

ある日、マクマーフィは、患者たちをレクリ

エーションに連れて行くバスをハイジャックし、途中で女友達を乗せて港まで行く。嘘について、漁船を借りると、一同を乗せてそのまま外海へ行き、クルージングを楽しんだ。患者たちは開放感に浸った。この事件の後、医者たちはマクマーフィを刑務所に戻すべきだと主張するが、ラチェッド婦長はここに置いて置きたいと言う。インディアンの大男チーフは初めはマクマーフィに心を開かなかったが、マクマーフィの言うことを聞いてバスケットをやるようになった。大男のチーフは背が高いので楽に得点を稼いだ。マクマーフィとチーフはカナダへの脱出を考えた...

解説

ケン・キージーの原作は1962年に出版され、アメリカの青年たちによく読まれ、300万部を超すベストセラーになった。徹底的に管理され、押さえつけられた病院の中で、自由と人間の尊厳を求めて戦うマクマーフィの姿が、ベトナム戦争や学園紛争などで傷ついた当時の若者たちの共感を呼んだのである。この映画の製作者となったマイケル・ダグラスは、監督に社会主義政権によって故郷チェコスロバキアを追われた、ミロス・フォアマンを起用する。ミロス・フォアマンは体制批判のみならず、むしろ人間らし

さや、自由への渴望を正面に取り上げ、ヒューマニズムに溢れた映画とした。主役のジャック・ニコルソンはその独特な風貌をいかして、正気と狂気の境目の人間像を演じ、アカデミー主演男優賞を獲得した。また、憎まれ役を徹底的に演じた看護婦長のルイーズ・フレッチャーも主演女優賞を手にした。この年の作品賞、監督賞、脚色賞もこの映画が得ており、アカデミー賞の主要5部門を独占したのは史上3作品のみである。

硫黄島からの手紙 Letters From Iwojima

<鑑賞日:2011.4.11>

制作：2006年 アメリカ映画

上映時間：140分

監督：クリント・イーストウッド

脚本 アイリス・ヤマシタ

出演：渡辺謙、伊原剛志、二宮和也、加瀬亮、中村獅堂、裕木奈江

あらすじ

2006年硫黄島、地中から数百通の手紙が発掘された。それは61年前、この島で戦った日本軍の兵士たちが家族に宛てた届かなかった手紙である……

戦況が悪化した1944年6月、硫黄島に指揮官、陸軍中将栗林忠道(渡辺謙)が降り立った。陸士、陸大を経て、アメリカに2年間留学した経験を持つ栗林は、アメリカの力をだれよりも理解している男だったが故にこの度の任務の重さを十分に理解していた。

着任早々、水際で米軍を撃退する作戦を改めたり、理不尽な部下への体罰を戒めた栗林は、古参の将校から抵抗を受けるが、一方では西郷(二宮和也)のような兵士たちからは、今までの指揮官とは違う栗林に尊敬の念を深める。将校の中にも栗林の理解者もいる。その一人が口

サンゼルス・オリンピック、馬術競技の金メダリスト「バロン西」こと西竹一中佐(伊原剛志)である。

栗林の作戦は、人員、物量豊富で制空権、制海権を握る米軍に対抗するには地下要塞と、張り巡らしたトンネルで徹底抗戦をすることであった。45年2月19日、ついにアメリカ軍は上陸を開始する。その圧倒的な兵力の前に、5日間で終るであろうと言われていた硫黄島の戦闘は栗林の指揮のもと、36日間にも及ぶ大激戦となった。玉砕こそが軍人の名誉とされていた日本軍にあって、栗林は玉砕を禁じ、一日でも長く島を守り抜くことが、米軍の本土攻撃を遅らせ、家族を守ることにになると部下たちに命じたからである……

解説

クリント・イーストウッドは、2006年に太平洋戦争の硫黄島の大激戦を2本の映画で描いた。アメリカ側の視点から見た『父親たちの星条旗』と日本側から見た『硫黄島からの手紙』である。

『父親たちの星条旗』を準備していたイーストウッドは硫黄島の激戦を調査中、日本軍総司令官栗林中将の存在を知る。

陸軍のエリートながらアメリカに留学し、合理的な思考を持つ栗林が、どうして6日で終る戦争を36日間引き伸ばしたかに興味を持ち、彼らの手紙を参考にして日本側の視点から見た

『硫黄島からの手紙』を作ったという。イーストウッドは「戦争には勝者も敗者もない。犠牲になった若者を忘れてはいけない」と言い、硫黄島の戦闘を日米両面からとらえなければ、真実は見えてこないと考えたのである。イーストウッドの映画は『許されざる者』(1992)のように、ある人物にとって正しいことが立場の違う人物にとって悪になるということを示す映画が多い。硫黄島の戦闘も真実を見極めるために、日米双方から見た「二部作」を必要としたのである。

名もなく貧しく美しく

<鑑賞日:2011.4.25>

制作:1966(昭和41年)東宝映画 上映時間:130分

原作、脚本、監督:松山善三

出演:高峰秀子、小林桂樹、原泉、草笛光子、沼田曜一

あらすじ

竜光寺の嫁秋子(高峰秀子)は幼いとき、高熱を発して耳が聴こえなくなった。戦争中、大空襲の中で一人の男の子アキラを拾って育てたが、戦後、留守の間に家人に孤児収容所に入れられてしまう。秋子の夫は発疹チブスで急死したので実家に戻される。実家には母たま(原泉)、姉信子(草笛光子)、弟弘一(沼田曜一)がいるが、姉と弟からは邪険にされる。聾啞学校の同窓会で受付の片山道夫(小林桂樹)と知り合い、結婚を申し込まれる。その誠実な人柄と、聾啞者は一人で生きるの難しく、二人なら生きていけると信じた秋子は結婚を承諾する。二人の間に子供が生まれるが、両親とも耳が聴こえないため子供を事故で死なせてしまう。二人はショッ

クを受けるが、気を取り直して靴磨きで生計をたてている。

その頃、姉信子は家出しバーで稼ぎ、弟の弘一はぐれて、刑務所に入っている。弘一が出所したが、仕事がなく、昔の仲間と付き合うようになり、金に困って母親の家を売ってしまう。住むところのない母親は秋子の家に転がり込んできた。秋子に子供が生まれた。子供は男の子で一郎と名付けた。今度は事故がないようにと、たまが子供の面倒を見るようになった。たまは金を出して、ミシンを買い、秋子は内職に励んだ。道夫は植字工になり生活はやや安定してきた。一郎はすくすくと育ち、未来に明るさが見えてきたが.....

解説

木下恵介監督の一番弟子と言われた松山善三の第1回監督作品である。夫婦共に聾啞者というハンデを背負った夫婦が、お互い助け合い、二人三脚で戦後の混乱期を生き抜く物語である。二人は言葉が通じないから手話で意志を通じ合う。手と指を組み合わせ、目の表情、体全体の動作で夫婦の細かい感情を伝える。サイレント映画に近いドラマだが、スーパー・インポーズを用いて観客の心に強く訴えた。夫婦役を演ずる小林桂樹と高峰秀子は、ハンディキャップによる苦難を等身大で演じ、人々を感動させた。

高峰秀子(1924~2010)は5歳の時、松竹映

画『母』のおかっぱ頭の子役でデビューしてから1979年『衝動殺人』を最後に引退するまで、実に300本以上の映画に出演した大女優である。1955年松山善三と結婚し、松山の第1回監督作品に出演した。昨年12月10日死去。享年86歳。

小林桂樹(1923~2010)はサラリーマン物から社会派ドラマまで、幅広く活躍し、その生涯において253本の映画に出演した。代表作は『ここに泉あり』(1955)『裸の大將』(1958)『黒い画集』(1960)『名もなく貧しく美しく』(1966)がある。2010年9月16日死去。享年87歳。

「浮雲俳句会」抄録 No.14

「浮雲俳句会」代表 北野清市

【兼題「宇宙」にトライ】

H22年度の兼題には、「宇宙」を掲げ、これにトライしてきた。

それぞれの月別のテーマは、太陽（7月）・銀河系（8月）・天国（9月）・宇宙（11月）・惑星（12月）・昴（1月）・地球（2月）・朧月（3月）・それにフィナーレを飾って、五次元（5月）に挑戦した。

このうち、5月のテーマ“五次元“は、“宇宙をキーワード“にアタックしてきた一年間の総括である。因みに、三次元の世界が縦・横・高さの三つの次元。即ち立体的な空間の世界から、“時間“の次元を加えた四次元へ。更に、この四次元の世界に、“重力“を加えた“五次元“へ。別言すれば宇宙である。

五次元へロケット発射麦の秋 一清

【月例俳句】

〔第三ステージ＝他流試合〕の今年。俳句の原点に立ち返って“月例俳句“にポイントを置いてきた。

この点、今回は5月（皐月）。ゴールデン・ウィークにはじまり、花々が咲き、新緑が美しく、行楽が楽しい。夏のはじめ（初夏）の一年で一番気持のよい、爽快な季節“五月“を謳歌しよう。

肩書きのとれし気軽さ風五月 一清

《野島への吟行》H23年4月24日

49回例会は、地元の野島界隈の吟行。浮雲俳句会の吟行会も今回で4回目である。9時半シーサイドライン「野島公園駅」集合。主な吟行先は、旧伊藤博文金沢別邸 野島展望台 掩体壕（えんたいごう）。

〔秀作〕

天賞 花は葉に空しき闇の掩体壕 十九

<掩体壕>は、戦時中、戦闘機を空襲から守るため、野島山の東西をトンネル状に貫通した壕。海軍の小型機100機ほどを格納する計画のものであった。

この<掩体壕>が、未使用のまま、65年余

り経過した今日、<空しき闇>と化しているのである。それは、桜の<花は葉>に変わる時間の経過が、ひときわ、過ぎ去った昔の物語を深めるようだ

地賞 牡丹の芽野島夕照届きまじ 勇平

<野島夕照（せきしょう）>は、歌川広重の金沢八景絵図の一つ。広重の時代「野島軒」といわれた野島の漁村を、真中に置き、金沢八景見物の屋形船を前景に、海に浮かぶ烏帽子岩や夏島を中景や遠景に描いた絵画である。

この広重の頃の<野島夕照>は、今ようやく牡丹が開こうとする<牡丹の芽>には、到底<

届きまじ>と達観しているのだ。

人賞 花は葉に島の施設は避難所に 一馬

大震災から一ヶ月半。被災者の<避難>場所拡大の輪が、全国に広がっている。この点、野島でも、地区内にある「青少年研修センター」が、<避難所>の候補になっているという。

花が葉に移り変わるとともに、大震災の爪跡

も、一段と、広く、かつ、深くなっている昨今である。

〔特選〕

三葉つつじトリオで揺れて枝の先 国眼

春光に溶ける磯の香野島沖 三旦

行く春や出船入船光る水脈 国眼

たんぼぼのわたしは真ん丸飛ぶぞ飛べ

国眼

五月（皐月）H23年5月22日

「みどりの日」右も左も庭弄り（特選）

重九

（以下第50回例会の投句）

五月は、俳句の世界に登場する全ての“花鳥諷詠”が、最も輝き、活動する季節である。このスタートが、ゴールデン・ウィークの始めの「みどりの日」からだ。

新緑が全島おほう野島山（特選） 好童

滴りは富士のご褒美走り水（特選） 国眼

龍華寺の仏に捧ぐ牡丹かな（特選）

さち代

墨痕の香る楷書や柏餅（特選） 十九

一方、五月は、年間の兼題「宇宙」のフィナーレの月でもある。そして“五次元”へのトライだ。縦・横・高さ・時間プラス重力の世界へ。水母と化し五次元旅す今朝の夢（天賞）

とも女

五次元や見果てぬ夢の夏の朝（特選）

一紀

他方、もう一つの五月の兼題は「蟻」。「蟻」

は、今が一番活動的で、土の中や腐った木の幹に巣を作る。女王一匹のために、雄は巣から出ず、ほかの蟻はみな職蟻として一生懸命働き続ける。

道半ば往くか還るか蟻思案（地賞） 岩介

コンビニの灯に集ふ非行蟻（人賞） 勇平

大蟻が画帳の海を渡りけり 一清

更に、他の動物も活発に動く。例えば、田圃では蛙。野鳥では燕が子育てに夢中だし、四十雀は縄張り宣言のために囀り。夏鴨や鴉も子育てに忙しい。

尺とりといふ宿命を引きずりて 一清

小満や大満足にやや寝入る（特選） 一馬

更にまた、五月も半ばを過ぎると、“新緑”が万緑に化し、“緑陰”が恋しくなる。

万緑に兜のごとき天守閣（特選） 二祥

《13回金沢区民俳句大会への参加》H23年6月5日

〔秀作〕

天賞 捕はれて鯨の顔の恍惚をり（他の結社）

地賞 若竹の立志ある如伸びにけり とも女

人賞 KOBANの軒に子燕飛ぶ稽古

（他の結社）

ここでは、わが「浮雲」のメンバーの句に絞

って、選評しておきたい。今回は〔秀作〕3句中、**地賞**を「浮雲」のメンバーが獲得した。

地賞にある<若竹>であるが、竹の子が伸びて竹になったものである。初夏には<若竹>もあざやかな青緑で、さわやかである。しかも、みるみる大きくなる。この<若竹>を擬人化。

これを人間に譬えて<立志ある如>と捉え、続いて<伸びにけり>と結んだのである。

いかにも、ういういしく新鮮だ。そのすがすがしいあざやかさが、青年の大きく伸びる<立志>に通じる佳句である。

[特選]

森ひとつ抜け来て白し山法師 (他の結社)

雨催ひ谷に鳴き交ふほととぎす (他の結社)

ステッキの父と銀座の薄暑かな (他の結社)

源流の瀬音に和して夏鶯 十九

さまざまな音色に変はる江戸風鈴

(他の結社)

こでも、わが「浮雲」のメンバーの句に絞って、コメントしておきたい。鶯は、初春に声を発し、夏に至るまで、その美声の止むことがない。また鶯は、初春に山麓から、段々山地深く入り込み、<夏鶯>として8月末頃まで鳴き続ける。しかし、夏の終わり頃にはその声もやや衰え、これを「老鶯」という。この<夏鶯>が、山地深く、<源流の瀬音に和し>夏を惜しんでいるのだ。鶯の生態をよく捉えた見事な写生句である。

「寺社を巡る会」10周年記念講演会 のお知らせ

「寺社を巡る会」は平成14年5月に“わ”の会の分科会として発足してからはや10年目を迎えることが出来ました。

これを記念して私たちの住む金沢にとって歴史上最も縁りの深い「金沢北条氏」について、そ

の研究の第一人者である永井先生による講演会を下記の通り実施することと致しました。

今まであまり学習する機会がなかったテーマです。有意義なお話が聞けると思いますので、多数の会員のご参加をお待ちしています。

記念講演会実施要領

- ・日 時：2011年11月21日(月)12:30~14:30 (12:15から受付)
- ・会 場：能見台地区センター 多目的室
- ・テーマ：「金沢北条氏」
- ・概 要：金沢北条氏全般につき平易にお話いただきます
- ・講 師：神奈川県立金沢文庫 主任学芸員 永井 晋 氏
- ・参加者：“わ”の会会員
- ・参加費：無料
- ・申 込：事前の申し込みは不要。当日、会場にて受付

栄区の東側周辺地域

朝比奈・六浦・釜利谷・峰の概説 (1)釜利谷

熊谷 哲

本稿は「横浜郷土史団体連絡協議会」加盟の「栄地域史研究会」からの依頼に基づいて、去る 6 月 27 日の栄地域史研究会の月例会で行った講義のレジュメを基本としています。栄区の東側周辺 4 地域の概説を求められましたので、地誌的な紹介に若干のトピックスを加味しました。

「栄地域史研究会」では平成 17 年度から栄区周辺地域の郷土史の講座を開催してきておられます。泉・戸塚・玉縄・岩瀬・港南・磯子と進め、今回の金沢で完結しました。今般の講座は上記協議会の前会長の岡本茂男氏の差配幹旋によるものです。

今回報編集委員会からの要請により、分割して地域の順序を変えましたので若干の補追をしました。



釜利谷

中世に六浦庄(むつらのしょう)といった地域は現在の金沢区(朝比奈地域を除く)全域で、六浦本郷、釜利谷郷、金沢郷、富岡郷があった。現在「釜利谷」と通称する地域は、中世に釜利谷郷(更に古くは富田郷)といわれた宿村・坂本村・赤井村の旧 3 村地域と江戸時代の海面埋立により造成された金沢入江新田の一部地域(京急線の西側地域)である。

(支配者) 平安時代後期：源義朝(1123～60)。

保元 2 年(1157)大中臣実経。

鎌倉時代初期：源頼朝 のち建久年間(1190～99)

仁和寺子院勝宝院(院主は貞暁(1186～1231) = 頼朝の庶子)の荘園になる。また旧坂本村(禅林寺などがある)と宿村東光寺谷の辺りを一時期頼朝の重臣畠山重忠(1164～1205)が支配したといわれる。畠山重忠については後述。

鎌倉時代北条氏が執権の時代：建治 3 年(1277)

書面上北条氏の領地になるが、それ以前の元仁 1 年(1224)頃から金沢北条実泰が支配。

室町時代：鎌倉公方足利氏が支配。実質的には上杉氏が支配。

室町時代後期：釜利谷 3 村を伊丹氏が支配。釜利谷初代は伊丹経貞。4 代目永親(?～1558)は小田原北条氏に仕えた。伊丹氏については後述。徳川家康入府後の江戸時代：坂本村は紅葉山東照宮の御神領となる。江戸城紅葉山東照宮別当の忠尊(?～1639)(伊丹永親の孫)の力。宿村と赤井村は江戸幕府直轄地となり代官が管理したが、元禄 12 年(1699)皆川藩領(藩主は米倉昌尹)になる。享保 7 年(1722)米倉忠仰(ただすけ)が瀬戸に居館を置き金沢藩となり、六浦 3 村・寺前村・宿村・赤井村を支配。

明治 4 年(1871)六浦県、同年神奈川県。

(町村名の変遷) 釜利谷という地名が歴史に登場するのは鎌倉時代末期の古文書で「六浦庄富

田郷今は蒲里谷と称す」とある。室町時代の文書に「六浦庄釜利谷郷」が出てくる。釜里谷・釜利屋とも書かれている。江戸時代初期の検地の後に「釜利谷村」が誕生し村役人も置かれた。正保から元禄(1644～1704)の頃に宿村・坂本村・赤井村の3村に分かれるが、明治8年(1875)合併して釜利谷村に戻る。明治22年の市町村制施行により六浦三分村と共に六浦荘村となり釜利谷村の名が消える。昭和11年(1936)六浦荘村が横浜市と合併し、この地域は磯子区釜利谷町と金沢泥亀町になる。昭和23年(1948)金沢区、昭和後期から平成初期にかけての「住居表示施行」により29の町(丁目)が誕生した。

(現町名) 釜利谷東(一～八丁目)、大川、釜利谷南(一～四丁目)、釜利谷西(一～六丁目)、釜利谷町、みずき町、高舟台(一・二丁目)の一部、能見台(一・二・六丁目)、能見台(三・四丁目)の一部、富岡西五丁目の一部。

(地勢と面積) 『新版かねざわの歴史事典』巻頭部の旧地形概念図(添付)から分かるように釜利谷は山林が主体の地域で、西域に横浜市内最高峰の大丸山(釜利谷町、標高158.9m)がある。谷戸や瀬戸の入海に面した平地は田畑になっていた。瀬戸の入海が干拓されて江戸時代後期に泥亀新田村になるまでは入海は塩田として利用された。その情景は「内川暮雪」(天保7年=1836頃の広重画)に描かれている。上記現在町(能見台三・四丁目と富岡西五丁目を除く)の面積は約710ha(H19年)。

(古道) 鎌倉への古い道：坂本村の禅林寺辺りを西進し鎌倉郡上之村(現在の栄区上郷町)から鎌倉の中心部(泉谷あたり)に達する道。この道の途中に金沢北条氏初代の^{さねやす}実泰の館があったといわれる。この道は朝比奈切通開削前に利用されたと見られるが消滅して今や不明。

白山道(しらやまみち)：宿村の東光禅寺・関東学院大学金沢文庫キャンパス・相武隧道の上を通り鎌倉十二所に達する道。関東学院大学金沢文庫キャンパス以西の道は開発で失われた。

谷津への道：手子神社から瀬戸の入海に沿っ

て赤井村を経て谷津村に達する道。この道は白山道と共に、朝比奈切通・瀬戸橋完成(1305)までは鎌倉と金沢(称名寺)を結ぶ幹線道路だった。

滝不動への道：赤井村内の道で、正法院付近から富岡西五丁目の市立富岡中学校辺りの「滝」という所に行く道。

(主な道路) 笹下釜利谷道路：港南区関の下二本松隧道(昭和50年開通)16号線君ヶ崎交差点に至る。この道の途中から原宿六浦線(環状4号)の六浦交差点への道路も整備されている。横浜横須賀道路と金沢支線が通り、釜利谷JCTがある。

(人口) 天保1年(1830)頃は3村合せて187軒。明治1年(1868)は218軒939名。昭和14年(1939)釜利谷町は世帯数279人口1,581。平成19年(2007)の上記各町(能見台三・四丁目と富岡西五丁目を除く)の合計は世帯数18,744人口46,785。

(産業) 山林からの薪の出荷と農業が中心、製塩も行われていたが江戸時代後半の入江埋立で衰退。薪は近辺地域での製塩用に出荷されていたが明治末の塩業整備により消滅。宿村・坂本村・赤井村の3村の村高は「元禄郷帳」、「天保郷帳」何れも913石余だった。ちなみに明治1年(1868)の3村の石高は960石(松本家文書)。

(大学) 関東学院金沢文庫キャンパスがあり、学部は文学部。スポーツ施設が整備されている。

(青ヶ台遺跡) 縄文時代中～後期(4,500から3,000年前)の遺跡。竪穴住居跡・人骨などと共に縄文人の生活遺物が発見されたが阿王台団地開発により消滅した(釜利谷東四丁目北部)。

(青野山) ここに金沢北条氏第4代^{さだゆき}貞将の弟の貞冬の居城があったという。貞冬は元弘の変(元弘1年=1331)の際後醍醐天皇討伐のため足利高氏(のち尊氏)らと共に大軍を率いて上京している(太平記)。

(畠山重忠・重保) 畠山氏は桓武平氏良文流、秩父氏の流れ。畠山重忠(1164～1205)は頼朝の御家人として重きをなしたが、北条氏と対立し元久2年(1205)二俣川(旭区)で北条義時に敗死

した。子の重保は由比ガ浜の自邸で殺害された。重忠が秩父から鍛冶匠を釜利谷に移住させたとき「金沢」の地名を持ってきたとの説もある。重忠の遺品が東光禅寺にあり市文化財。重保の墓という五輪塔がある。釜利谷の布川氏は畠山氏の庶流といわれる。

(伊丹氏) 伊丹氏は藤原氏の流れ、摂津国伊丹を領した武家で伊丹姓を名乗った。釜利谷の伊丹氏はその一流派。

室町時代前期に伊丹左京亮^{つねきだ}経貞が釜利谷で初代。金蔵院や手子神社を創建(文明5年 = 1473)した。4代目の三河守永親(? ~ 1558)は小田原北条氏に仕え釜利谷に住み、禅林寺を再興した。墓は禅林寺。

永親の長子康信(? ~ 1560)は永禄年中、上総国嶺上で北条方の武将として里見方と戦って戦死。次子政富(1538? ~ 1610)は家を継ぎ北条氏政に従い、天正11年(1583)下総国関宿城主。

政富の子光昌は小田原落城後、大阪の陣(1615)以降は徳川家に仕えたが後に断絶。政富の子直吉も徳川家に仕えたが、その子に忠運(1630 ~ 86)がいる。直吉4代目直賢(1696? ~ 1766)は徳川吉宗に従って江戸城に入り御家人、出世して一橋宗尹(吉宗の4男)の家老になった。墓が禅林寺にある。政富の4男は僧籍に入り忠尊(? ~ 1639)と名乗り、浅草寺の住職と徳川家康を祀る紅葉山東照宮の別当を兼帯した。忠尊は家光の覚えめでたく、坂本村の御神領化、荒痛文殊の浅草寺への移祀、禅林寺の再興に影響力を発揮した。

その後も伊丹氏の子孫は手子神社や禅林寺などの維持に寄与した。末裔は釜利谷に実在しており、邸内に五輪塔などが残されている。

(北条実泰) 北条義時の子。釜利谷に住み金沢北条氏の始祖。元仁 1 年(1224)頃から六浦庄を支配。

(金沢入江新田) 瀬戸の入海に造成された新田。江戸時代の寛文 8 年(1668)永島祐伯が開発を始め、度々の災害にあいながら、9 代目忠篤が嘉

永 2 年(1849)に 200 年近くかかって新田全体を完成させた。

(釜利谷小学校騒動) 関東大震災の後六浦の三分小学校と釜利谷小学校の統合(場所は六浦)を進めた六浦荘村に対し、釜利谷地区の住民が起こした反対運動。地域の伝統の無視と通学の遠隔・危険が元。4 年近くかかって昭和 2 年(1927)分教場建設や通学路の改善などの実現で解決した。

(海軍航空技術廠支廠) 昭和 16 年(1941)追浜の海軍航空技術廠の航空兵器部門を独立させて大川から瀬戸にかけに建設された施設。戦後跡地は東急車輛・横浜市立大学・金沢高校・金沢中学になった。

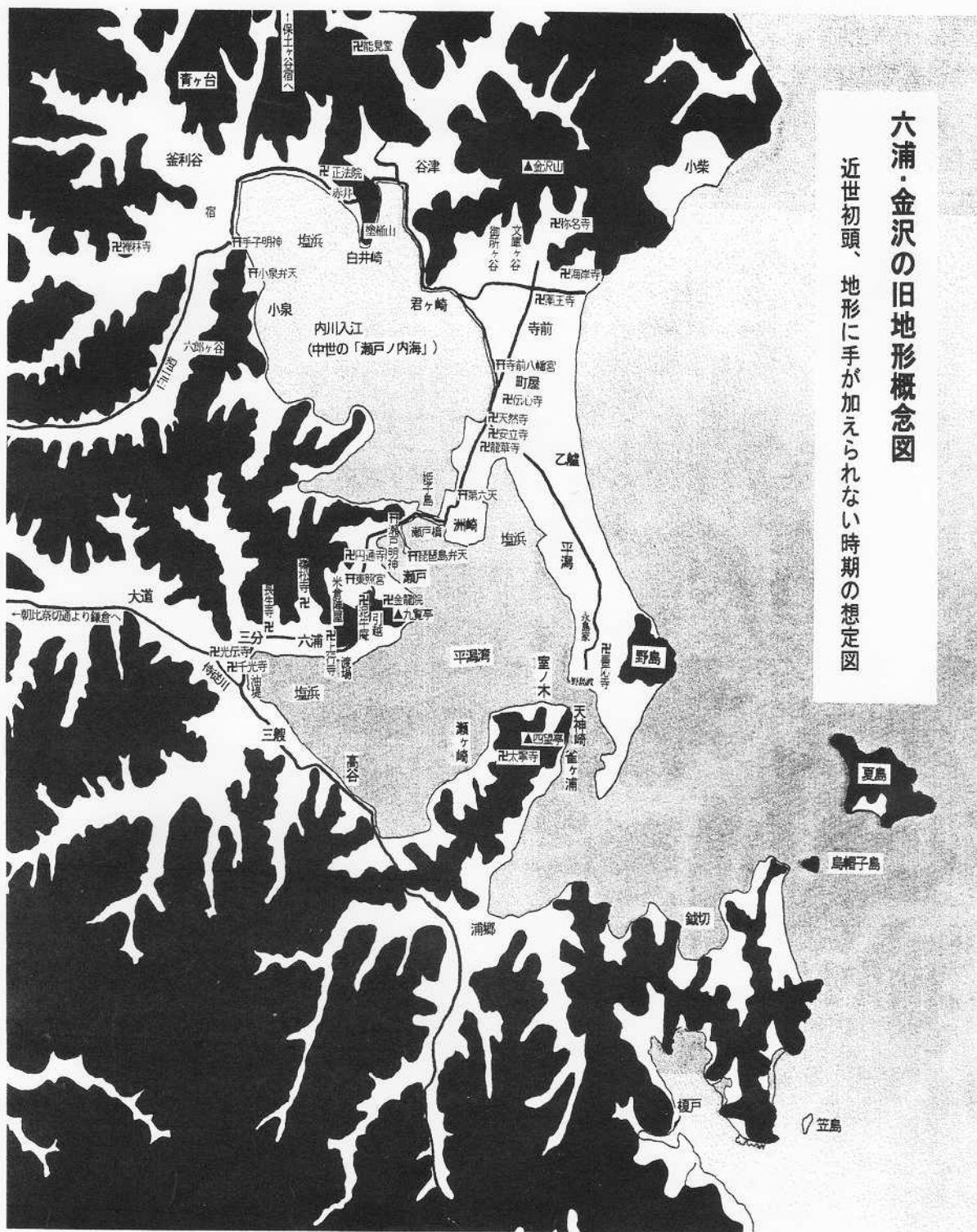
(東洋火工爆発炎上事故) 昭和 34 年(1959) 東急車輛の西奥の谷戸にあった東洋火工の工場で起った爆発事故。TNT 火薬の試験中に発火した。死傷者 594、区内の建物の全損壊 1,117 に達した。

(寺社) 手子神社。正法院。金蔵院。満蔵院。禅林寺。自性院。東光禅寺。

(その他) 小泉弁財天社。白山社。磨崖仏。荒痛文殊。小泉の夜雨。内川の暮雪。赤井。滝不動。小中井(御仲井)。金沢自然公園と金沢動物園。うなぎの井戸。

参考文献 (主要な資料のみ記載、詳しくは『新版かねざわの歴史事典』の付属資料を参照)

- ・『新編武蔵風土記稿』江戸幕府、天保 1 年(1830)
- ・『横浜市史稿』横浜市、昭和 6 年(1931)
- ・『金沢の 100 年』内田四方蔵、昭和 62 年(1987)
- ・『図説かねざわの歴史』金沢区役所、平成 13 年(2001)
- ・『新版かねざわの歴史事典』“わ”の会、平成 22 年(2010)
- ・横浜市役所・金沢区役所などのホームページ・統計資料・区民生活マップなど



(神奈川県立金沢文庫展示図録『金沢八景』より転載)

700年前の津波の話

伊達 一雄

東日本大震災で津波に襲われた被災地は3ヶ月を経った今も傷跡が消えない。

悲しい現実だが遠く離れた神奈川県民としては、地震に遭っても津波に襲われる心配はないだろうというのが正直な感想ではないだろうか。

そんな折、昔、大津波があって「長浜千軒」と呼ばれていた集落が流されたという話を讀んだことを思い出した。

こんなご時世なので、気になって図書館などで調べてみた。

この話が最初に載ったのは1927年（昭和2年）5月に発行された『武州金澤六浦案内』と思われる。著者の家田氏の住所は神奈川県久良岐郡金沢町字柴で、その中の長浜検疫所にこう書かれている。

～長濱は昔、長濱千軒と呼ばれた漁師家だったが、応長年間の大海嘯に全滅して海に化したと伝えられ、当時の丘上に検疫所が建っている。

記述はこれだけで、根拠となる文献などについては何も書かれていない。

家田氏は1991年（平成3年）に『金澤の歴史案内』という本を出されており、この話の根拠は今も柴町にある寶蔵院の縁起書にあると明記し、

「応長元年（1311）五月十八日長浜千軒大津波の為に打崩されし際阿弥陀のみ残存せしを坊山（ぼうやま）に移す」とある原文を紹介している。

また、長浜千軒については「現在の長浜より余程前方へ突き出ていた大なる漁村で在ったこ

とが分かる」と記している。

長浜千軒があった時、海岸より十八町もある所に「岡の観音様」があって参詣人が絶えなかったといわれ「明治28年長浜検疫所を創設した際、大なる礎石や根太とも思える大木などの埋没したのを掘り出したのは確かに岡の観音堂の跡であるとのこと」とある。

家田氏は長浜千軒のあった場所は現在の海岸線からかなり突き出た場所にあった筈だと想像図を示されており、砂浜に土交じりの岡であったために大津波に洗い流されたものと思われると書かれている。

インターネットでも見ることができる楠山永雄氏の『ぶらり金沢散歩道』のNO.51に長浜千軒が大津波で海没という見出しで紹介されている。

～文字通り長く連なる浜で、昔は海辺に沿って「長浜千軒」といわれるほど大きな漁村であった。ところが、応長元年（1311年）5月18日、突如大津波に襲われて長浜千軒は一夜にして海中に呑込まれた、という伝承がある。～

応長元年は金澤北条氏の時代で、今から丁度700年前である。

この津波に関する記述を原文で読めないかと県立金沢文庫に尋ねたところ、2002年春に開催した企画展『観音菩薩像～秘仏40体公開』の展示図録に載っているという。（次ページに写真と読み）

図録は完売していたので、横浜市立図書館で原文を見ることができた。

文書の名前は『柴村長浜山観世音菩薩和讃』

文化12年(1815年)に^{まがひ}愍戒という僧が作ったものだという。和讃というのは、仏や菩薩などの徳や靈驗を讃える仏教歌謡のようなもので、庶民にも分りやすい文章で書いてあり漢字には全てルビがふってある。

内容は応長の津波で海に流され行方不明になっていた長浜観音堂の本尊・聖観音菩薩像が37年後の貞和3年(1347年)に漁師の網で引き上げられたという靈驗因縁譚を記したものである。



歸命頂禮觀世音
 聖大慈悲の菩薩なり
 海中上げんましまして
 弘誓ぞふかき長浜の
 昔し海辺に千軒の
 漁父の家有りけるが
 ころ八応長かい元の
 亥の年さつき十八夜
 俄にあく風吹おこり
 みん家津波に引き流れ
 波かぜあらくもる人は
 うきつしずみつ溺れけり

このあと、里人は現れた小舟に乗って難をのがれ岸に着いたと続く。そして「人民はちからなくこしばの里に引き移り」年を送ってきたが、貞和3年長浜沖の海底に夜な夜な光るものがあった。里人が引き揚げると菩薩像で、「三十七年海中に沈みたまふ八身代わりよ実ありがたや観世音」と長浜山に御堂を建てて安置したという。

という訳で、長浜千軒が津波で消えたという伝承が残っていることが確認できた。

一つ気になるのは、長浜千軒を大きな集落だとしていることである。

千軒という名前は全国にあり広島県福山市の草戸千軒が有名だが、広島県立博物館のブログには「～千軒という名前は実際の戸数を示しているのではなく、現在は滅びてしまった

けれどその昔は繁栄したことがあったという伝説の町に付けられることの多かった名前」と書かれており、草戸千軒も100軒を超えてはいないとしている。

それでは長浜千軒にはどの位の人が住んでいたのか。

内田四方蔵氏の資料によれば天保11年(1840年)の柴村の戸数は52戸である。とすればそれより500年以上も前の長浜千軒の規模は想像出来る筈である。

楠山永雄氏は「素人考えだが、この津波はチリ地震(1960年)のように遠方の地震による津波ではなく、江戸湾近くの地震によるものと思えてならない。しかし、何故か伝えられる記録には「地震」という文字は見当たらない。」と書いている。

確かに昔の記録を調べても応長元年5月に関東地方で地震または津波があったという事実はないのである。

では、長浜の津波は単なる伝承でしかないのだろうか。

700年前の長浜千軒は漁師達の粗末な家が散在する所だと考えて間違いないと思う。とすれば地震による津波が押し寄せなくても、

強い風が吹いて大波が来れば家が流されることがあっても不思議ではない。

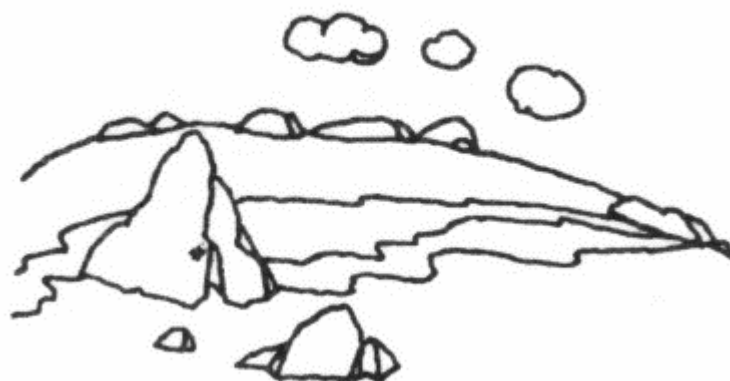
紹介した「和讃」は500年以上も後に書かれたもので菩薩の靈験を強調するものであれば、千軒も家が津波で流されたという方が説得力のある表現と思われる。

ここは素直に昔あった「長浜千軒」は大波に流されて消失したと考えたい。

私が言いたいのは津波の事実を云々するのではなく、津波とは縁がないと思われる金沢区にもこんな伝承が残っていることを知ってほしかったのである。

「天災は忘れた頃にやってくる。」

この警句を忘れずに、いざという時に備える心構えを持ち続けたいものである。



『吾妻鏡』を読む(1)

小倉 英明

一、『吾妻鏡』は何時 誰が書いたか定説はない。徳川家康が座右の書として愛読し、伝本の蒐集に努力したことは有名である。

二、その内容は源三位頼政が以仁王の令旨を得て平氏倒滅を図った治承四年(一一八〇)四月九日から、鎌倉を放逐された六代將軍宗尊親王が京都に帰着した文永三年(一一六六)七月廿日までの八十七年間に及ぶ。

三、文体は変則的な和風漢文で、毎日の干支や天気まで日記風に記されている。

引用すれば。

〔原文〕

治承四年十二月十二日 庚寅

天晴風静。亥刻前武衛將軍 新造御亭有御移徙之儀。為

景義奉行、去十月有事始、令宮作于大倉郷也。時刻、自上

総次介広常之宅入御新亭。御水干、御騎馬石禾栗毛。和田

義盛候最前(略)畠山次郎重忠候最末。入御于寢殿之後御供

輩参侍所、二行対座。義盛候其中央、着到云々。凡出仕之

者三百十一人云々。

〔読み下し文〕

天晴れ風静かなり。亥の刻、前武衛將軍新造の御亭に御移徙の儀あり、景義奉行として、去ぬる十月事始あり。大倉郷に宮作せしむるなり。時刻に上総次介広常が宅より新

亭に入御す。御水干御騎馬石禾栗毛。和田義盛 最前に候

ず(略) 畠山次郎重忠最末に候ず。寢殿に入御の後、御供の輩侍所に参じ、二行に對座す。義盛その中央に候じて着到すと云々。およそ出仕の者、三百十一人と云々。

〔現代語訳〕

天晴れ風は静か。午後十時、頼朝が新築なつた御亭に引越する儀式が挙行された。大庭景義を奉行として、去る十月に着工し大倉郷に建築させていたものである。定刻に上総次介広常館より新邸に入られた。御水干を着し栗毛の馬に乗られていた。和田義盛が行列を先導し(略)、畠山次郎重忠が最後尾だった。寢殿に入られた後、お供の武士たちは侍所に参り二列に向かい合つて座した。和田義盛がその中央に座して御家人たちの出欠をとつた。凡そ出仕したものは三百十一人だった。

四、追伸

『吾妻鏡』を編纂したのは誰か明らかではないが、北条氏の一門の金沢氏とその周辺とか、幕府の問注所を担つた三善氏の関与が考えられる(現代語訳『吾妻鏡』五味文彦)。

金沢の歴史と云えば鎌倉との関係が欠かせません。その鎌倉の歴史資料「吾妻鏡」について数回連載します。

編集子

行事予定

2011年9月～2011年11月の予定

注：表中の「CC」は地区センターの略

	9月	10月	11月
学習会	9月10日(土) 金沢 CC 9:30～12:00 富岡八幡宮と湯立神楽 富岡八幡宮宮司 佐野 主水 氏	10月14日(金) 集合：9：45 金沢文庫駅 西口広場 探訪「能見堂跡と 釜利谷東部を歩く」	11月12日(土) 能見台 CC 9：30～12：00 金沢地域の古文書を読み解く 横浜開港資料館調査研究員 松本 洋幸 氏
寺社を巡る会	9月1日(木) 集合:10:00 京急川崎駅 テーマ:川崎宿 行動:田中本陣跡、万年屋跡、六郷渡し舟の碑、川崎大師、瀋秀園、総持寺	10月6日(木) 集合:10:00 京急生麦駅 テーマ:神奈川宿 行動:生麦事件碑、参考館、見付跡、金蔵院、成仏寺、慶運寺、洲崎神社、本覚寺、台町、関門跡	11月3日(木) 集合:10:00 相鉄天王町駅 テーマ:保土ヶ谷宿 行動:神明社、金沢横町道標、御所台の井戸、本陣跡、権太坂、境木地蔵尊
古文書を読む会	9月8日(木)金沢地区 CC 野嶋浦 鈴木家文書 9月22日(水)金沢公会堂 桜田門外の変 9月28日(水)金沢公会堂 第5回基礎講座	10月13日(木)金沢公会堂 野嶋浦 鈴木家文書 10月27日(水) 金沢地 CC(仮) 桜田門外の変	11月10日(木)金沢公会堂 野嶋浦 鈴木家文書 11月24日(水)金沢公会堂 桜田門外の変
ふれあいの道歩こう会	9月15日(木) (雨天9/16) 栃木コース 16 アシそよぐ水辺のみち	10月20日(木) (雨天10/21) 茨城コース 9 筑波連山縦走のみち(2) 10 筑波山頂めぐりのみち 11 筑波山めぐりから旧参道のみち	11月17日(木) (雨天11/18) 茨城コース 13 果樹の里のみち
懐かしの映画を観る会	9月12日(月)金沢 CC 12:30～ 老人と海(米) 9月22日(月)金沢 CC 12:10～ めまい(米)	10月10日(月)金沢 CC 12:30～ 雁(大映) 10月24日(月)金沢 CC 12:10～ 愛と追憶の日々(米)	11月14日(月)金沢 CC 12:30～ また逢う日まで(東宝) 11月28日(月)金沢 CC 12:30～ OK牧場の決闘(米)
浮雲俳句会	9月25日(日) 金沢 CC テーマ:百舌 第53回句会 小さな猛禽を追う	10月30日(日) 青少年センター テーマ:金沢区民俳句大会 吟行会	11月27日(日) 金沢 CC テーマ:鷹 第54回句会 勇猛なハンターに迫る
パソコンを使いこなす会	9月6日(火) インターネット基礎講座 - Google 検索の基本 - 9月27日(火) Windows 基礎講座 -バックアップとデータの引越- 9:30～12:00 金沢 CC	10月4日(火) WORD 基礎講座 -図や写真を自在に配置- 10月18日(火)WORD 基礎講座 -WORD 表作成のコツ- 9:30～12:00 金沢 CC	11月1日(火) インターネット基礎講座 -辞書サイトで快適検索- 11月15日(火)音楽 CD 基礎講座 -オリジナル CD の作成- 9:30～12:00 金沢 CC

連絡先： 学習会 782-8147(小俣)
古文書を読む会784-3420(岡田)
懐かしの映画を観る会 701-1606(佐藤)
パソコンを使いこなす会 701-9775(林)

寺社を巡る会 784-1460(松本)
ふれあいの道歩こう会 783-4539(宮原)
浮雲俳句会 774-3878(北野)

編集後記 会員になって日の浅く、その上、経験・知識・技量もないまま編集長就任後初の会報です。それでも発行に漕ぎつけることができました。来年発行10周年を迎えようとしている会報編集の蓄積の歴史と先輩の協力の賜です。感謝！ 更なる発展に寄与すべく努力したいと思います。 皆さまのご協力よろしく願います。(利晴)	発行日	平成23(2011)年8月13日
	発行周期	4回/年(2、5、8、11月)
	発行者	金沢区生涯学習“わ”の会
	編集長	大門 利晴
編集員	貝田 誠作 田中 徳明 伊達 一雄 吉田 寿紀 相川 勲 金間 誠一	